



特集

祝 開学30周年

- 記念式典学長式辞
- 記念式典 記念講演会ほか
- 第26回技大祭 長岡国際祭り
- 同窓会講演会 フットサル大会
- 21世紀COE合同シンポジウム



祝 開学30周年



CONTENTS

- 2 特集 祝 開学30周年
- 11 私の抱負 / 留学生スピーチコンテスト
- 12 新潟日報文化賞
- 13 課外活動
- 14 就職コーナー
- 15 トピックス
- 16 にいがたみである記 / 編集後記

平成18年10月1日に開学30周年を迎えました。

本学は昭和51年10月に、実践的な技術の開発を主眼とし、大学院に重点を置いた新構想大学として開学しました。今年10月1日、開学30周年を記念し、記念式典を長岡市立劇場で、記念祝賀会をホテルニューオータニ長岡でそれぞれ開催しました。

開学30周年記念式典

学長式辞

本日は長岡技術科学大学の開学30周年記念式典にご参加いただきありがとうございます。ご来賓の皆様方にはご多用中にもかかわらず、ご臨席を賜り、この祝典を迎えられたことを長岡技術科学大学を代表して厚く御礼を申し上げます。

本学設置の構想は、高度成長から安定成長への転換期に当たる昭和40年代後半であります。高専卒業者の隘路打開や学校体系の多様化への対応、当時の産業界の技術革新への対応が主な要因でありました。また、科学技術の急速な発展に伴う経済・社会の著しい変貌と、これらを背景とする高等教育に対する国民のニーズの増大と多様化の流れが新構想大学設置の推進につながったと認識しております。

このような経緯を経て、本学は昭和51年10月、実践的な技術の開発を主眼とした教育研究を行う、大学院に重点を置いた工学系の大学、従来の大学の枠組みにとられない新構想大学として誕生いたしました。

「技術科学」に関する創造的能力の啓発、すなわち、型にはまったことだけをこなすのではなく、独創力を増強して“考え出す大学”を目



指し、設立以来、文部科学省、新潟県、長岡市、地元企業、その他大学関係者の皆様をはじめとする多くの方々のご理解とご支援を受けながら、「VOSの精神」（Vitality【活力】Originality【独創力】 Services【世のための奉仕】）を持って教育・研究、産学連携を推進してまいりました。近年、“ものづくりの重要性”が再認識されていることを考えますと本学の使命・役割は益々重要になってくると考えます。

お蔭様で、これまで学部卒業生10,163名、大学院修了生7,926名を世に送り出し、卒業生は指導的技術者として日本国内にとどまらず、世界の第一線の様々な分野で活躍しております。

本学は他に先駆けて実施してきた実務訓練（インターンシップ）、民間等との共同研究など幾多の成果をあげ、大きく発展をすることができました。特に実務訓練については、本学が理念



としている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」をするため、企業等での現場経験の重要性を鑑み、約5か月間という長期の実務訓練を課しております。近年では、国際的視野を持つ指導的技術者も養成するため、海外での実務訓練も積極的に展開しております。この長きに渡り実施してきた実務訓練が各方面より高く評価され、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定されております。

また、研究面においては、文部科学省が実施している「21世紀COEプログラム世界的研究教育拠点」に本学から2件採択されており、競争的資金の獲得状況においては、教員一人当たりの獲得額では主な工科系大学でも上位につけるなど高いポテンシャルを持っております。

国際交流においては、今後わが国にとって重要となる東南アジア、中南米諸国を核とする環太平洋を中心とした人的ネットワークをさらに押し進め、教育研究機関としての社会貢献を行っていきたくと考えております。

創設以来、着々と校舎の増設、教育組織の整備などを行い、常に時代を先導し、社会のニ-

ズに柔軟に対応をしてまいりました。この4月には、近頃、技術者のモラルハザードの低下で世間を騒がせている「安全・安心」というキーワードに対応すべく、社会人を対象とした専門職大学院「システム安全専攻」を国内で初めて開設することができました。また、時代にマッチした、より高度な研究を推進するため、大学院博士後期課程に「生物統合工学専攻」を設置いたしました。

開学30周年のこの日を一つの区切りとし、決意を新たにして創設の理念達成に向けて努力いたす所存です。

最後になりましたが、本日ご臨席賜りました皆様方からは30周年記念事業実施にあたり、多大なるご支援をいただき深く感謝いたしております。今後もこれまでも増してご指導、ご鞭撻をいただき、本学の発展にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

平成18年10月1日

長岡技術科学大学長 小島 陽

祝 開学30周年

記念式典・祝賀会

記念式典には地元選出の多くの国会議員，県議会議員，市議会議員，大学・高専関係者，企業関係者など約450人が出席しました。小島学長の式辞に続いて，結城文部科学事務次官が伊吹大臣の祝辞を「数々の特色ある教育研究により多くの卓越した学問的成果を上げるとともに，幾多の優秀な人材を輩出されたことに敬意を表します」と代読しました。

続いて，新潟県知事（代理），長岡市長（代理），相澤国立大学協会会長，稲葉衆議院議員，田中衆議院議員が祝辞を述べました。

記念祝賀会では来賓9名による鏡開きが行われ，斉藤信義元副学長の発声で乾杯。招待者，元職員などの関係者が創設期の思い出を語り合うなど，開学30周年を盛大に祝いました。



結城文部科学事務次官



相澤国立大学協会会長



来賓の皆様

作文コンクール表彰式

式典終了後，長岡市立劇場にて開学30周年記念作文コンクール表彰式を開催しました。

このコンクールは，開学30周年を記念して，本学にまつわる思い出や本学への期待，本学と地域との関わり，さらには科学・技術の未来についての作文を，広く全国に募集したもので，全部で31編の応募がありました。

優秀賞受賞作品は以下のとおりです。

高校生・高専生・専門学校生の部

「原子を見た日～物理実験は楽しい～」

新潟県 波田野 悠 夏

「現実と夢の間」 神奈川県 牧 野 忠 慈

一般の部

「微塵子（みじんこ）パク」 沖縄県 神 里 美和子

「共に歩んで30年，さらに希望の未来へ」

新潟県 木 村 富美男



タイムカプセルの設置

本学の30年の歩み，現在の本学の姿，未来へのメッセージを納め，事務局棟1階ロビーに設置しました。開封は20年後，2026年10月の予定です。



除幕式の様子



タイムカプセル銘板

記念講演会

午後には、小島学長の基調講演に続き、2000年度にノーベル化学賞を受賞した白川英樹筑波大学名誉教授の記念講演会「セレンディピティーを知っていますか～導電性高分子の発見とセレンディピティー～」を開催しました。

白川先生は、実験失敗がもたらした予期せぬ薄膜合成をきっかけに研究を重ねてノーベル化学賞を受賞されたことや、導電性高分子の特徴と応用などについて分かりやすく話されました。

最後に、将来科学者を目指す学生に対して、「何事にも色々なものに興味を持って学んでいただきたい、また、他人のやらないことに挑戦することが大切です！」とメッセージをくださいました。



会場の様子



白川英樹筑波大学名誉教授

記念誌刊行

30周年記念誌『技学の躍動 長岡技術科学大学30年のあゆみと今』を刊行しました。本学30年の歴史と現在の活動とがまとめられています。「寄稿・随想」編には、本学名誉教授や卒業・修了生、元職員の懐かしい回想、現在の活躍ぶり、本学への提言などが載っています。「資料」編では、開学以来30年間の主要データを見ることができます。



事業募金のご報告

開学30周年記念事業募金活動に対し、広く皆様方のご理解とご協力を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。募金期間を平成19年9月30日まで延長いたしました。

引き続き、長岡技術科学大学特別奨学金制度（仮称）の創設、及び開学30周年記念国際交流会館（仮称）の建設にご支援を賜りますようお願いいたします。

右に途中経過をご報告します。

平成18年10月12日現在

| 区分 | 件数 | 寄附金額(円) |
|-----------|-------|-------------|
| 企業(団体を含む) | 384 | 120,843,500 |
| 個人(教職員除く) | 36 | 2,950,000 |
| 名誉教授 | 35 | 3,160,000 |
| 元職員 | 75 | 1,342,000 |
| 元教員 | 32 | 1,000,000 |
| 教職員 | 338 | 11,321,300 |
| 同窓会会員 | 438 | 6,570,000 |
| 父兄 | 4 | 150,000 |
| 学生 | 1 | 10,000 |
| 合計 | 1,343 | 147,346,800 |

第26回

技大祭

9/30

10/1

第26回技大祭 長岡国際祭り

テーマ「夢」

平成18年度の技大祭は、開学30周年事業の一環として9月30日、10月1日の2日にわたり開催されました。

技大祭は学生で組織する技大祭実行委員会が主催するもので、当日は研究室公開、演武・演奏、ゴスペル、ロボコン、ステージ発表、サークル展示等が行われた他、各種模擬店が開かれ、大学と一般市民の交流の場となり大いに盛り上がりました。

特に今年の「お笑いライブ」には、人気お笑いコンビがやってきたこともあり、幼児からお年寄りまで市内外から1,500人もの方々を訪れました。会場となった体育館は終始爆笑の渦に包まれていました。

また、例年11月下旬から12月初旬に市内中心部で行っている留学生会主催の「長岡国際祭り」は、今年会場を大学に移して技大祭と同時開催し、開学30周年の記念すべき節目の技大祭を盛り上げました。各ブースでは各国自慢の料理とパフォーマンスが披露され、キャンパスの一角は異国情緒に溢れました。



大勢の来客でにぎわう構内



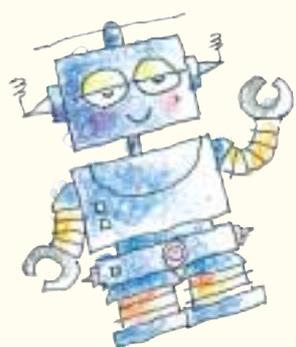
「つるかめ会」による和太鼓演奏
悠久太鼓愛好会



実践空手道部による大演部会



フリーマーケット



実施イベント

- お笑いライブ
品川庄司
博多華丸・大吉
まちゃまちゃ
- ゴスペルライブ
- 新潟中央高校ダンス部公演
- PMCライブ
- ESL英語劇
- 図書館公開
「レオナルド・ダ・ヴィンチの
科学技術展」

- 演奏・演武
悠久太鼓愛好会
転太鼓舞(長岡造形大)
吹奏楽部
津軽三味線
実践空手道部
合気道部
少林寺拳法部
吹奏楽部



技大祭を終えて

経営情報システム工学課程4年
技大祭実行委員長
佐藤 茂
(長岡向陵高校 出身)

今年も長いようで短い技大祭が終わりました。今年度は長岡技術科学大学が創立30周年ということもあり、「夢」をテーマに例年以上の盛大な技大祭を目指してスタートしました。今年は同じ期間にCOEシンポジウムや国際祭りなど多くの催し物が企画され、そんな中でも引けをとらない技大祭を行うために少数ながら委員全員の力を合わせて精一杯企画・運営に取り組みました。その結果、多くのお客様にご来場いただき、品川庄司などによるお笑い芸人ライブやゴスペルライブなど様々な企画で夢を見ていただけたと思います。

また数日前まで不安定な天気が続きながらも当日は半袖で過ごせるほどの快晴に恵まれました。2日目の夜に雨が降り片付けに苦労しましたが、それもまた技大祭ということで委員のみんな、また学生支援課の職員の方々にもご協力いただき無事終えることができました。

来年度は県内の大学や専門学校にご協力いただくことで、また一味違った技大祭を企画しようと早くも考案中です。

最後に技大祭にご協力いただいた協賛企業及び、教職員・学生の皆様、またご来場いただいた皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。また来年の技大祭で会いましょう。



研究室公開 化学のおもちゃ箱

ストラックアウト

PMC(ポピュラーミュージッククラブ)のライブ

図書館展示

七宝焼き体験教室

手作りガラス細工

模擬店

- 研究室公開
 - 「医用福祉工学研究室」
 - 「化学のおもちゃ箱」
 - 「長岡ロボコンシンポジウム」
 - 「スポーツ工・法学研究室」
 - 「水理工学研究室」
 - 「コンクリート研究室」
 - 「セマックスサイエンス研究室」
- 模擬店・展示
- 三輪車レース
- ピンゴ大会
- シールラリー
- フリーマーケット
- ストラックアウト

他

第8回

長岡国際祭り

9/30

10/1



ペンチャック・シラット
(マレーシアの伝統的な格闘技)



カレン・ドン踊り(ミャンマー)
民族衣装で



タイ料理



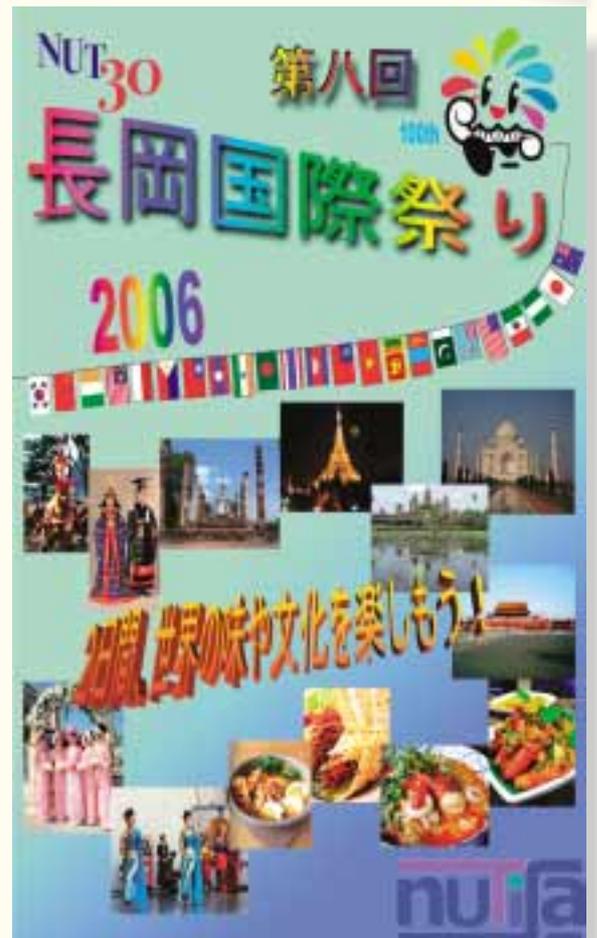
ベトナムのバンブー・ダンス

実施イベント

- 料理祭りおよび展示会開始
- タイのラムウオン
- ベトナムのバンブー・ダンス
- マレーシアのペンチャック・シラット
- ミャンマーのカレン・ドン踊り
- 日本の芸(三味線)
- Fashion Show(各国代表)

料理祭り

| 国名 | 料理名 | 国名 | 料理名 |
|--|------------------------------|---|-------------|
|  マレーシア | ナシレマック(9/30) チキンライス(10/1) |  ベトナム | フォー はるまき |
|  モンゴル | ホーシュール ボールツグ |  韓国 | 豆腐キムチ 焼酎 |
|  ミャンマー | モンヒンガー (Monhinga) |  中国 | ギョーザ ビール |
|  タイ | ラードナー (あんかけ焼きビーフン) | | |



同窓会



30周年に寄せて

同窓会会長
磯部 広信
(塩沢商工高等学校教諭)

長岡技術科学大学開学30周年、おめでとうございます。同窓生一同、心よりお喜び申し上げます。

私が卒業してから20年弱、その間に母校はめざましく変化し続けています。研究棟の増築、マルチメディアセンターの新設など、ハード面での充実は言うに及ばず、留学生数は飛躍的に

増え、交流プログラムも確立されるなど、国際的、学術的にも進化しています。

ますます発展を続けている母校ですが、その源流はひとつです。開学時に掲げられたVOSの精神は、今も脈々と受け継がれ、卒業生によって世界に広がっています。

学生時代に得た友人との絆。研究で培われた忍耐力、体力。社会人になってどんなに忙しくても、論文提出前のあの時期を思い出せば笑い飛ばせます。

VOSの精神を実践することが母校への恩返しと心に刻み、その実践によって、母校の今後の発展に少しでも寄与できれば望外の喜びです。

同窓会講演会

VOSの精神で新時代のテクノロジーを創造する！ 熱き技術者の挑戦

9月30日に本学A講義室において、同窓会主催の講演会を開催しました。本学を卒業し、技術開発の第一線で活躍する同窓生を講師に招き、当時の学生時代の思い出や現在の企業でのご活躍の様子を楽しくご講演いただきました。

【講演者】 山口 秀樹氏：清水建設(株)
土木東京支店 工事長
昭和56年度 建設工学専攻修了

遠藤 秀介氏：(株)IPSアルファテクノロジー
事業企画部長
昭和57年度 電子機器工学専攻修了



フットサル

9月30日に本学の陸上競技場において、同窓会主催のフットサルNGD杯2006が開催された。初めての大会であったが、13チーム、124人(27人のOBを含む)と多数の参加者があった。大会はアルビレックスチアリーダーズのゲスト応援もあり、大きな盛り上がりを見せた。決勝戦ではフットサルクラブ主体の蹴猿隊が、フェイエノーグチ(電気系・野口研)を破り、見事優勝を飾った。また、優秀選手賞を20代は佐々木敏雄さん(電気系B4・蹴猿隊)が、30歳以上は後藤智明さん(生物系98年修了・東山ピストンズ)が受賞した。

関 安 孝(生物系 助手 2001年修了)



21世紀COE合同シンポジウム

9月29、30日の両日、長岡技術科学大学開学30周年記念事業の一環として「21世紀COE合同シンポジウム」が行われました。21世紀COEプログラムは、研究予算の選択と集中を図り、卓越した研究拠点＝COE（Center of Excellence）を整備するため、文部科学省が大学の「研究力」を評価し、多数の応募の中から厳しい審査を経て選定された競争的資金です。本学では、平成14年度に化学・材料分野で「ハイブリッド超機能材料創成と国際拠点形成」（以下ハイブリッド）、平成15年度に学際・複合・新領域分野で「グリーンエネルギー革命による環境再生」（以下グリーン）の2つのCOEが採択され、教員あたりの採択数で本学は全国トップクラスです。

今回の合同シンポジウムでは、開会式で、学長挨拶及び両COEリーダーによるプロジェクト概要の説明が行われた後、3件の基調講演、4つの分科会と、ポスターセッションが行われました。

科学技術振興機構の北澤宏一先生、東北大学副学長井上明久先生、フジ写真フィルムの佐藤幸蔵先生による基調講演では、COEの目標を超えた社会と科学技術の関わりという広い視点に立った大変素晴らしいお話を伺うことができました。

しいお話を伺うことができました。

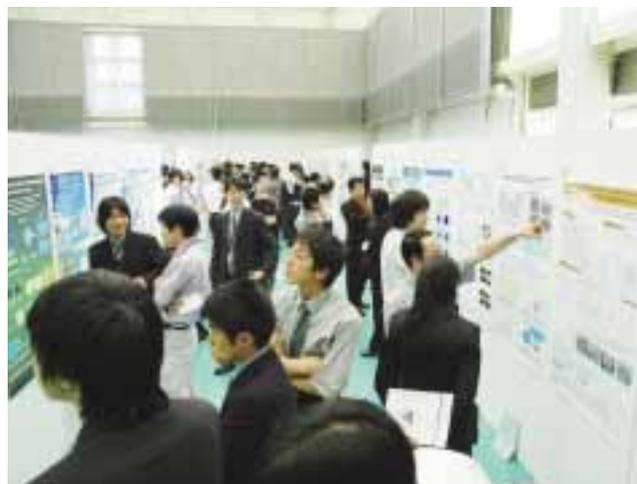
4つの分科会に分かれて行われた招待講演では、国内外から招待された研究者による両COEに関連した最新研究の話題提供があり、ポスターセッションでは本学COEの成果が大学院生を中心に発表されました。また優秀ポスター賞が会場での投票によって選ばれ、閉会式でその贈呈式が行われました。

COEプロジェクトは5年間の時限であり、ハイブリッドは今年度の3月で、グリーンも来年度の3月が期限となりますが、そのラストスパートに向け有意義な2日間となりました。

高原 美規
（生物系 助教授）



基調講演
「東北大学副学長井上明久先生」



ポスターセッション(セコムホール)



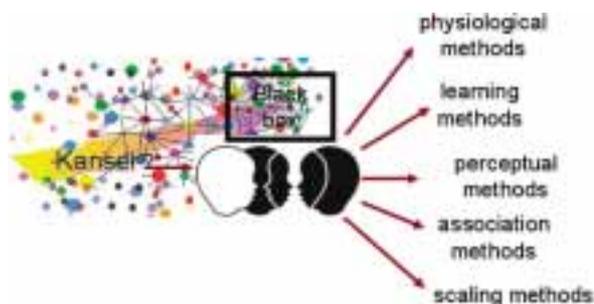
分科会「グリーンマテリアル・エネルギーセッション」



「文化の感性」

チャンドラジット
アーシュボーダ マーラシンハ
(経営情報系 助教授)

10月より本学経営情報系 助教授に就任しました。スリランカ、コロンボ大学理学部数学物理科出身です。卒業後、1999年3月国際情報化協力センター（CICC）の研修生となり、2001年9月会津大学大学院で情報システム学修士を終了、CICC講師としてマルチメディアシステム開発、WBTシステム、マルチメディアWebコンテンツ開発、教育設計の各コースを担当しました。2004年9月同大学の情報システム学博士を取得しました。同年から日本学術振興会（JSPS）の外国人特別研究員として会津大学のソフトウェア工学研究科に所属し、感性工学、ソフトウェア工学、情報システム工学に関する授業に携わってきました。研究面ではソフトウェア工学を幅広く研究領域としておりますが、主たる研究分野は感性工学で、この研究の目的は、異なる言語体系をもつ人々の様々な対話において、発話音を聞き手が聞きその音を認知・



理解するメカニズムを探ること、さらに、その発話音により聞き手が想起される感情がどのようなメカニズムによって生ずるかを明らかにすることです。今後は色々な言語のパターン、いろいろな文化の感性を研究しながら、これから作成するヒューマンインターフェースに利用したいと考えています。

これからの大学教育においては、eラーニングが大切だと思いますので、微力ながら協力させていただきたいと思います。さらにボランティア活動を通して文化交流に務め、地域に貢献したいと願っています。自分自身の留学生としての経験を生かして、留学生の皆さんの力になりたいと切望しています。

留学生 スピーチコンテスト

スピーチコンテストに参加して

2003年来日し、今年の4月に本大学に編入学しました。母国から離れて生活し始めたころはいろいろな面で苦労しました。その私を救ってくれた“微笑み”のことを題名にしました。今まで重ねてきた経験を題材にして9月18日にむつみ会主催により開催された第18回外国人による日本語スピーチコンテストで発表しました。微笑みの大切さが皆さんに伝わるよう頑張り、学長賞を受賞できました。

スピーチコンテストに参加して新たな経験ができました。ほかの参加者のスピーチを聞き、その



経営情報システム工学課程3年
ライン ミン ウー
(ミャンマー 出身)

人が体験したことや日本におけるさまざまな意見を間接的に感じる事ができました。日本人にとって当たり前のことは外国人から見ると面白いと思ったり意外に感じたりするので、大勢の日本人もスピーチを聞きに来ました。

みんなの発表後日本の三味線を味わうことができました。受賞式が終わっていろんな国の人と話ができ、その場所はまるで世界の村になったような気がします。国際交流ができる機会なので来年も是非聴衆として参加したいです。

新潟日報文化賞は、新潟日报社によって、新潟県の県勢伸長と県民生活の向上を目的として、昭和23年に制定されました。産業技術、学術、芸術、社会活動の四部門での顕著な業績に対して与えられる名誉ある賞です。平成18年度は、学術部門で本学の西口郁三副学長が、産業技術部門で機械系柳和久教授が受賞されました。

学術部門 有機化合物を電子により変換する

此の度、「有機電子移動反応を用いる有機合成化学の新展開」に関する研究業績に対して、栄えある新潟日報文化賞（学術賞）を賜りました。

これらの研究では、電極又は金属MgやZnと有機化合物の間との電子移動により生成する特異な反応中間体を用いて、今迄の化学的手段では不可能又は極めて困難である、数多くの高い独創性、有用性や効率性を有する新規有機合成反応を開発しました。

これらの「有機化合物の電子による合目的変換」という学術的・技術的業績により、40歳代に「有機合成化学奨励賞」、「工業技術賞」や「化学技術賞」を受賞し、更に本年5月には国際的な学会である米国電気化学協会の有機・生物電気化学部門より“Manuel. M. Baizer”賞を受賞させて頂きました。

その主たる研究成果の一つとして、大変困難で煩雑な手法を必要とする、不飽和化合物へのアシル基の共役付加反応を、逆転の発想により電気分解反応を用いる温和な条件での簡便、効率的、選択的な捕捉により世界で初めて成功した事があります。この結果は、後年の学生が金属Mgを犠牲陽極として用いた無隔膜電解反応のスイッチを入れ忘れたハブニングによる「金属Mgを用いる多くの電子移動型クロスカップカップリング反応」の貴重な知見に繋がり、これ以後の私の研究業績の最も重要な契機になりました。他の代表的な研究成果としては、兵庫県の花の野路菊の極微量成分で、貴重な香料素材であるノジギクアルコールの安価な天然物からの製造や、トルエン類からの医薬、農薬、有機電子材料などの重要中間体である芳香族アルデヒド類の（高選択的/段階変換と）、セミパイロット有機電解反応装置（写真）を用いる工業的製造法の確立があります。



西口 郁三
（副学長）



有機電解装置

産業技術部門 物造り産業の基盤技術開発および製造中核人材の育成事業による地域貢献

大方の懸賞制度において受賞するためにはその募集に対して応募する必要があります。正直を申しますと、今回は積極的な応募ではなく、ある方から背中を押されての申請書作成でありました。おそろおそろ過去の蓄積を拾い出し、応募書類の余白を埋めたことを今でも記憶しています。幸か不幸か、産業技術部門ということで、私の場合は通常の教育研究業績があまり決め手になりませんでした。特筆すべき技術開発を行った訳ではなく、トピックス性も皆無でした。開き直って、これまでの奉職期間でなし得たことを時系列的に掲げてみましたら、案外それらが本学の基本理念に則っていることに気づきました。すなわち、実践的技術の開発、創造的能力の啓発、地域社会の要請にこたえるなどに帰着しているのです。例えば、地元中堅企業との基盤技術や製品開発、産業技術を活用した新しい教育方法（シニア・テクニカル・アドバイザー）の構築、製造中核人材育成プロジェクト（長岡ものづくりアカデミー）の創設、長岡技術者協会・先端技術研究会の活性化、さらに、多くの公的産業支援機関との連携強化を図ったことなどが一例となります。特に、今年は開学30周年と長岡市制100周年の記念イベントに関与する機会に恵まれ、多少なりとも地域貢献の真似事ができたものと自負しています。しかし、これらは私個人が担った仕事ではなく、学内外の多くの方々の献身的な協力のもとで遂行してきたものであります。長年に渡って構築してきた組織の力と本学執行部の寛大な運営方針によるものと確信する次第です。



柳 和久
（機械系 教授）

この度の受賞は私にとっても地域貢献の第一歩に過ぎません。VOSのS（Services：世のための奉仕）に位置づけられるのですが、地域社会の要請は従前の産学共同研究・協同教育を超えて、次世代のための「まちづくり」を協働して行うことにも向けられています。本学は今後とも開かれた大学であり続ける必要があります。

課外活動 EVENT

自動車部

関プロ総合優勝!(8月23・24日)

電気電子情報工学専攻1年 成田 一真
(小山高専 出身)

今年も関東甲信越の大学自動車部を対象とした競技会(通称 関プロ)が8月23日、24日に開催されました。競技はジムカーナとダートトライアルが行われました。

ポイント制で争われるため、例年出場台数の多い大学が有利な大会となっていたのですが、部員全員が精一杯頑張ってくれたおかげで両種目共にポイントランキングを制し、7年ぶりの総合優勝を果たすことが出来ました。私もFFクラスで出場したのですが一年間練習してきた甲斐あって、先輩とともに1

位2位を確保し上位を独占することができました。

来年は自分達が主催校となるので、より良い大会に出来るようにがんばりたいと思います。

自動車部ホームページ(大会の詳細が載っています)

<http://nutac.web.fc2.com/>



米百俵まつり

『武者行列』に参加してきました!(10月7日)

建設工学専攻1年 山本 孝幸
(和歌山高専 出身)

10月7日、今年度で第5回目となる米百俵まつりに、クラブ代表者・一般参加者の有志で組まれた技大生19名が参加してきました。

武者行列で私たちの演じた役割は、長岡藩山本帯刀隊です。写真のような本格的な衣装を身に着けて長岡市を練り歩き、大手通りで政府軍との合戦も行う予定でした。

しかし祭り当日、あいにくの天候不順のため(ぶっちゃんけ、ドシャ降りでした)、武者行列やその他のイベントは屋内で行われることになりました。



米百俵リレーゴール



うなこうじ祭り行進

残念だったのは、屋内のため合戦などが不完全燃焼だったことでしょうか?本来なら火薬を使用したかなり派手な合戦となる予定でしたが、今年は屋内のため音だけとなりました。それだけが少し心残りです。

今年の米百俵祭りは、長岡市政100周年を記念するイベントだったため、より祭りを盛り上げるため技大生・学生支援課の職員の皆様から多大なるご支援をいただきました。そのおかげで無事成功させることができたと思います。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



山本帯刀隊集合写真(筆者は前列左から3番目)



クラブ連絡会会長に就任して

材料開発工学課程3年 鈴木 太志
(鶴岡高専 出身)

今年新しくクラブ連絡会の会長に就任した鈴木太志です。今年鶴岡から編入してきたばかりでよくわからないことだらけですが、皆さん宜しくお願いします。

クラブ連絡会というのは各サークルから代表者を出し合っ

て技大のサークルの予算配分をしたり、大学の課外活動を活発にするために球技大会などの運営を行ったりしています。つい先日は技大祭があり、縁日やストラックアウトの運営、お笑いライブの警備など実行委員会とともに活動しました。

来年は毎年恒例の春季球技大会があるのでたくさんの人に参加してもらいたいです。また、今年は中止になってしまった長岡看護福祉専門学校との合同運動会に代わるイベントも企画したいと思います。ぜひ皆さんも学生行事に参加してください。

面接試験で必要なこと

私の就職活動が本格的に始まったのは去年の9月頃、そして計3社を受け、今年の5月に内定を頂くことができました。就職は人生のターニングポイントであり、個人が自由に仕事を選択し、就職活動をすることができます。しかし、希望通りの企業から内定を頂くことは容易ではありません。

様々な試験の中で最も重要なのは面接試験であると私は考えています。面接試験の良し悪しで大きな差ができてしまいます。私も得意でなく、それが原因で2社から断られてしまいました。しかし、このことは私の中で大きな経験となりました。復習して同じ失敗をしないというのは当然なのですが、何よりも度胸と適応力が身につく、結果3社目は前の2社の経験を活かし、内定を頂くことができました。

私が考えることとして、早い時期から募集している企業の試験を受け、その後第一志望の企業に挑戦するのが良いと思います。予想

材料開発工学専攻2年 永原大輔
(長野高専 出身)

外の質問をされても動じない度胸と、それについての知識がなくても、遠回りでも答えを見つける適応力が身につく、第一志望の企業の試験に役立つと思います。また自信を持って話せる趣味や特技を持っている人はそれをアピールして、自分の話しやすい話題にするのも良いと思います。

最後に、私と同じ他学科出身の方々、就職には有利です。理由はいくつかありますが、一番は他の人ができないことができるということです。これは非常に大きなアピールポイントとなります。みなさん、後悔の無いように就職活動、頑張ってください。



就職活動を楽しむ

私の就活は、就職サイトに登録した12月から始まり、企業を回り始めたのは2月下旬からでした。活動範囲は関東を中心とし、他に仙台などもありました。最終的には学校推薦で受けた企業から5月上旬に内定を頂きました。

就活で一番苦労したと思う点は自己分析です。「長所や短所、何がしたいのか、何をしてきたのか」などに悩み、自分に自信が持てず、エントリーシートを1日中考えて書けなかった日もありました。しかし、説明会に参加することで先に進むことができました。説明会は企業を知る機会でもありますが、就活全体に役立つ話を聞くことができます。良い刺激を受けることができるので、旅行気分では是非参加して欲しいと思います。ただし、自分の経験を熱心に話してくれる企業や棒読みで就活の心得を言う企業もあり、アタリハズレがあります。ハズレの場合は観光を満喫してください。きっと楽しい就活になると思います。私は仙台で牛タンを、横浜で中華街を

建設工学専攻2年 中花洋介
(木更津高専 出身)

満喫しました。

面接では、試験前に人事の方に「面接は会話と元気だ」と言われました。面接の前に伝えたいことを用意していると思いますが、それを本番で言うだけでは会話になりません。相手が何を聞きたいのかを理解するほうが重要で、そのあと自分なりの答えを分かりやすく元気に言うだけです。結果、1次、最終面接とも楽しく会話をすることができました。

最後に、これから様々な悩みが出てくるとは思いますが、深く悩みすぎず就活を楽しんで下さい。



ソフトボール大会にて(バッター)

第8回(平成18年度)高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム

8月24日(木)、25日(金)の両日、全国の高等専門学校図書館関係職員及び教員を対象に「第8回(平成18年度)高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムでは、「学術情報リテラシー教育」をテーマに講演会等を開催し、国立・私立高専及び新潟県内外大学から50機関、64名が出席しました。

第1日目は、青山学院大学文学部教育学科助教授野末俊比古氏による基調講演「学術情報リテラシー教育の理論・動向・課題」をはじめ、三重大学情報図書館チーム情報リテラシー担当柴田佳寿江氏による講演「三重大学附属図書館における情報リテラシー教育支援の新たな取り組み - 顧客満足度の向上を目指して -」のほか、本学教員4名による教育現場からの学術情報リテラシー教育について各演題による講演が行われました。

第2日目は、宮城工業高等専門学校藤本菜穂子氏、



パネルディスカッションの様子

阿南工業高等専門学校西井教雄氏及び本学情報サービス係小林晶子による3名の図書館職員の事例報告を行い、つづいて、講演講師、事例報告者をパネリストとして「図書館運営と学術情報リテラシー教育」について、パネルディスカッションを行い活発な意見交換を行いました。

また、第1日目午前及び第2日目午後に電子ジャーナルデータベース「SD」「JDream」「KANON(外国雑誌目次データベース)」及び「AIP/APS」の文献検索トレーニング実施しました。

なお、参加者からは、高専でも学術情報リテラシー教育を今後検討していきたいという意見が多数あり、学術情報リテラシー教育の重要性を認識する機会となりました。

中越防災安全推進機構 設立記念シンポジウム

下村 匠
(環境・建設系 助教授)

平成18年10月14日(土)15日(日)の2日間にわたり、本学マルチメディアセンターにおいて中越防災安全推進機構設立記念シンポジウムが開催された。初日は、本学丸山副学長による基調講演に続いて、2年前に発生した中越地震被災から復旧をテーマに、国道、高速道路、鉄道、雪氷防災の専門家の講演が行われた。2日目は、中越地震で得た経験をさらなる防災安全の推進に役立てようとの観点から、本学環境・建設系大塚教授、システム安全系杉本旭教授をはじめ、新潟大学、長岡高専、長岡大学、長岡市、NPO法人中越防災フロンティアからの講演が行われた。被災と復興を軸としつつも、多様な切り口の視点、示唆的で発展性を感じさせる講演が多く、興味深いシンポジウムであった。

中越防災安全推進機構は、中越地震における被災と復興に携わった経験を、学術、産業、行政に生かしてさらなる発展につなげることを目的に、本学、長岡造形大学、長岡大学、防災科学技術研究所雪氷防災研究



中越防災シンポジウムの様子

センターが中心となり設立された。震災後半年ごろから打ち合わせを重ねて、構想を膨らませ、活動を徐々に具体化してきた。その過程で長岡高専、北陸建設弘済会、長岡商工会議所も加わり、新潟県、長岡市をはじめとする周辺自治体の協力も得て、このたび正式に社団法人として認可されたのである。

中越防災安全推進機構には、産官学そして市民の立場からさまざまな役割が期待されている。機構のコアメンバーであり学術・技術面を担う本学は、これら他機関と連携して防災や安全に関する研究を推進すること、新しい学問研究を興すことを目指したい。

国営越後丘陵公園(長岡市)

加藤 孝弘(電気系 助手)

あまり人には知られていない名所・旧跡, 人に勧めたい観光地などを本来は書くべきところと聞いていますが, 私が長岡に来て半年程度と短く, その間に新潟県内を散策したわけでもないことから面白みのない文面になってしまうをご容赦願います。

さて, 上のように言い訳をした訳ですが何から書いて良いのやらほとほと困ったしだいでありませう。そういう訳で, 長岡に来て思った事なども含めて原稿を書かせていただきます。

さて, 私が長岡に来て最初に思ったことは4月だというのに雪が当然のように残っていたこと。こちらに来る前は島根県にありましたがそんな光景など一度も目にしたことがなく驚きました。私を驚かせた雪も溶け, 暖かくなり始めた頃に妻にせがまれ越後丘陵公園に行ってきました。ちょうどその頃はチューリップ祭りなるものが開催されており色とりどりのチューリップを見ることがで

きました。元花屋だった妻は咲いているチューリップの種類がわかるようで「ピンクダイヤモンド」「八重咲きのアンジェリケ」「ブルーダイヤモンド」「バレリーナ」など私に教えてくれました。赤, 白, 黄色のチューリップしか知らなかった私には, 色や咲き方などさまざまな種類のチューリップがあることに驚かされるばかりでした。

また, 旅行などでさまざまな観光地に足を運んだ際にご当地ソフトを発見すると, 食べずにはいられない私はここでも青バラソフトなるものを発見し注文してみました。渡されたソフトはなんともいえない微妙な色で食べるのをためらわせましたが, 食べると爽やかなバラの香りがし, おいしくいただくことができました。

ここ越後丘陵公園では時期に応じた花祭りが開催されているので花好きの方は足を運んでみたいかがでしょうか(大学の近くのなで行かれた方も多いかもしれませんが...)。



色とりどりのチューリップ



青バラソフト

編集後記

この秋は開学30周年記念式典, 記念講演会, 記念祝賀会, COE国際シンポジウム, 電子情報通信学会信越支部大会, IEEE信越支部設立記念祝賀会, 等々の華々しい数々のイベントが怒濤の如く通り過ぎていきました。とくに開学30周年記念祝賀会では, お酒の勢いも荷担してか諸先輩方々のご苦勞話・本音のお話をお伺いできました。煩雑な日常においてはつい忘れがちなのですが, 長年の歳月で培われた本学の歴史の重みを直接肌で感じた思いが致します。



2006年10月1日
開学30周年を迎えました。

VOS 136号(平成18年11月)
編集発行/長岡技術科学大学広報委員会(総務部 総務課)
*本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。

〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1
Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000
E-mail skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp
U R L : <http://www.nagaokaut.ac.jp/>

VOSの由来

本学のモットーである Vitality Originality , Servicesの頭文字をとって 本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。